

第235回 エフエム栃木放送番組審議会 議事録

1 開催年月日 平成30年1月15日(月) 11:00~12:20

2 開催場所 宇都宮グランドホテル

3 委員の出席 委員総数 6人
出席委員数 6人

(1) 出席委員の氏名 片山 貴之 (委員長)
君島 理恵 (副委員長)
青木 敬信
早川 富美子
篠田 裕次
小笠原 伸

(2) 放送事業者側出席者 関根 房三 (代表取締役社長)
佐藤 望 (放送部長)
古寺 雄史 (総務部課長)

4 議題 (1) 番組の試聴及び意見交換
(2) その他
(3) 次回開催日程について

5 議事の概要

(1) 番組の試聴及び意見交換

1月3日(水曜日)に放送した新春特別番組「モーターフリーク初笑い MFKB スペシャル」と「BLACK BERRY」について、試聴と意見交換をおこなった。

事業者：

前者は、20年の長きに渡って毎週土曜日の朝に放送している車情報番組「モーターフリーク」内の人気コーナー「MFKB(モーターフリーク クルマ バカ)」の2017年の放送分から、特に好評だった3人をピックアップし、特別番組として再編集したものです。

後者は、毎年お正月恒例となっているバラエティ企画で、レディオベリーに侵入した謎の海賊放送局「ブラックベリー」が繰り広げたブラックジョークが満載の波瀾万丈的番組です。

【 番 組 の 試 聴 】

〔モーターフリーク〕

委員：

トークにテンポ感があり、車についての知識が無くても十分に楽しめる内容だった。

また、全体的に BGM の選曲が良い。特にエンディングテーマのパット・メセニーは、とてもしっくりときた。

事業者：

オープニングやエンディングの BGM は、通常の番組で使っているものを、今回の特別番組でも使った。

委員：

導入部にあった「MFKB」のタイトルの連呼は効果的な演出だった。また、番組としての完成度は高いと感じた。

委員：

トークパートの特徴的な BGM の音量が大きく、話の内容がやや聞きづらくなっていた。

また、途中に「ラッパ」や「殴る」などの効果音を多用していたが、使用された場面や、その頻度について疑問があり、不快な演出になってしまっていた。

委員：

土屋圭市さんの年始コメントがあったが、特別番組でもあるので、彼の経歴については、簡単でもいいので、何か説明が欲しかった。

委員：

番組のタイトルに「初笑い」と銘打つほどのお笑いの要素はあまり無かったが、鹿島田アナの「あけましておめでとうございます。」の第一声が、いかにも新春特番らしく、とてもすがすがしい良い声だった。

また、鹿島田アナは車に対する知識も深く、マニアックなクルマ話にもうまく対応していた。

車を趣味としている人は時代とともに減っているようだが、このように内容を深く掘り下げ、番組という形でマニアが集まる場を提供していくことは、よいことだと思う。

〔ブラックベリー〕

委員：

パイプオルガンの重厚な響きの中での、佐藤アナのナレーションが効果的だった。

ラジオショッピングを元ネタにしたジョークや、棚橋さんらの栃木弁が特徴的だった給湯室での井戸端トークなどが面白かった。

委員：

普通の放送を聴いていて、その元ネタが分かっているこそ楽しめる内容も多く、ネタの出来、不出来の差が大きかった。また、今年は、リポーターの実名を挙げての暴露話だったり、他の県内ラジオ放送局を弄るネタだったり、全体的に思い切った内容になっていたように感じた。

委員：

F M 栃木の放送は、他の放送局と比べると、上品に感じるものの平凡でやや面白味に欠け、放送を聴いていて、何か楽しいトークが聴けそうという期待感があまり持てなくなっている。

多方面への配慮から萎縮しすぎてしまうことなく、この番組のように、たまには羽目を外して、制作側の自由な発想と多様性を示すことは、番組という放送局のコンテンツ価値を上げるきっかけに繋がっていくはずだ。

単なる悪ふざけにはならないように気をつけながらも、今後も是非、挑戦し続けてほしい。

(以上)

(2) その他

なし

(3) 次回開催日程について

次回の開催を3月12日(月)とすることについて、全出席委員の了解を得た。

6 答申または改善意見に対してとった措置および年月日

なし

7 答申または意見の概要を公表した場合、公表の方法および年月日

(1) 放送 1月28日(日)午後7時55分の「レディオベリーインフォメーション」内

(2) 書面 本社事務所に備え置き

(3) インターネット エフエム栃木ホームページ内

8 その他の参考事項

なし